

# 銅原料、需給が緩む可能性も

減少続く  
住宅着工  
自動車生産もマイナスに転じる

橋本金属  
アルミ  
橋本健一郎氏リポート①

## ■ 概況

八月前半は六月のユーロ圏PPIは前月比〇・一％上昇、予想の変わらずを上回ったことや、八月のユーロ圏投資家センチメント指数は二・七に急低下し、一年ぶり低水準だったこと、七月のドイツ新車登録台数は前年比六・八％増加で二七万〇、二四九台だったことなど欧州経済指標の一部好転を歓迎するも、2QのインドネシアGDP伸び率は前年同期比五・一二％、予想の五・二％は下回ったもののほか、七月のユーロ圏総合PMI改定値は五三・八に下方修正、サービス部門PMI改定値も五四・二に下方修正した。NATO、ウクライナ東部の国境に約二万人のロシア軍が集結との報道や、インドネシアの銅精鉱輸出再開によるカッパーカソードプレミアムの急落を受けてLME銅相場は下落、八月十五日時点、六、八八七ドル(セツル)と月初価格より二四八ドルDOWNの前半締めとなった。

後半はECBドラギ総裁が量的緩和に踏み切る可能性が高い事や、中国は経済成長目標である七・五％プラスを達成させるために何らかの策を打ってくるだろうと投資家の期待、六月の米住宅価格指数(政府統計)は前月比〇・四％上昇、予想の〇・三％上昇を上回るなどのプラス材料もあったが、八月HSBC中国製造業PMI速報値は五〇・三に低下、予想の五一・五を下回ったこと、七月の中国工業部門企業利益は前年同月比一三・五％増で前月から伸び幅は鈍化したこと、ウクライナ大統領、ロシア部隊進入への対応協議で安全保障国防会議を緊急招聘するなどの地政学リスクの高まりから大幅DOWN、九月二日現在、後半スタート価格から一一四・五ドル下落の六、九六六・五〇ドル、銅建値七十七万円のスタートとなった。

## ■ 前月の経済指標

◆ 月間のドル/円レート(TTS)  
一〇三・七五↓一〇五・〇六(円)

## ◆ 自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一・七％減の八九万四、七四二台であった。

## ◆ 自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比五％減の二〇万六、六〇六台。

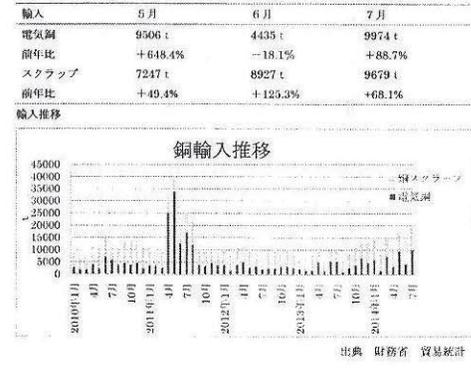
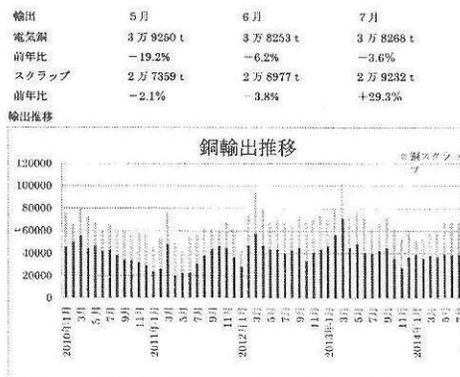
## ◆ 新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸

数は前年比一四・一％減の七万二、八八〇戸であった。

## ◆ 貿易関連指標

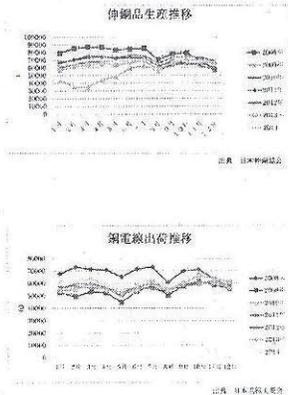
財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が三・六％減の三万八、二六八t、スクラップが二九・三％増の二万九、二二二t。輸入は電気銅が前年比八八・七％増の九、九七四t、スクラップ六八・一％増の九、六七九t。



## ■ 前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比一・二％増の七万〇、六二〇t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前年比三・一％増の六万三、六〇〇tであった。(六面へ続く)

(四面より続く)



■見通し

今月も引き続きワウクライナ情勢の行方、及び中国の景気対応に一喜一憂した月とみた。

自動車生産台数は八万九千四百七十四台で、前年同月の九万一千二百六十四台比で一万五千五百四十四台・一七・七%の減少となり、一カ月ぶりに前年同月を下回った。

乗用車七万五千五百三十三台で、一八・四台・二・四%の減少となり、一カ月ぶりのマイナス。トラック一萬二千三百一十四台で、一・三三三台・一・一%の増加となり、一三万月連続のプラス。バス一萬四千六百五十四台・一・六四四台・一・三・二%の増加となり、二カ月連続のプラス。七月の国内需要は四六万〇、二六〇台で、前年同月比二・五%の減少。

八月の国内自動車販売台数(軽除)は、二〇万六六〇六台で、前年比五・九%減、一カ月ぶりのマイナス。

うち乗用車は五・九%減、貨物一%増、バス五・二%増、輸出は前年同月比〇・一%の増加。

七月の住宅着工戸数は、七万二、八八〇戸(前年同月比一四・一%減)、季節調整済年率換算値で八三・九万戸(前年比五・〇%減)。堅調に推移してきたが、このころ、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあって減少している。

持家(注文住宅)の着工については、本年一月から前年同月比で減少している。分譲マンションの着工については、建築費の上昇等の影響により、事業者間の契約・着工が先送りされているとの事業者の見方がある。また、貸家の着工については、相続税の節税対策等もあり、堅調に推移してきたが、前年同月比で一七万月ぶりに減少したこのような状況のもと、住宅着工については、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【持家】

前年同月比では六カ月連続の減少(前年同月比二・五・三%減、季節調整値の前月比七・九%減)。

【貸家】

前年同月比では一七万月ぶりの減少(前年同月比七・七%減、季節調整値の前月比九・二%減)。

【分譲住宅】

前年同月比では六カ月連続の減少(前年同月比七・七%減、季節調整値の前月比一・二%減)。

【分譲マンション】

前年同月比では六カ月連続の減少(前年同月比二・二七%減)。

【分譲一戸建住宅】

前年同月比では三カ月連続の減少(前年同月比三・七%減)。

伸銅品生産は前年比一・二%増の七万〇、六二〇t、一三万月連続のプラス。

うち、内需五万八、六一四tで二・五%増と一三万月連続のプラス。

連続プラス輸出一萬二、〇〇六tで四・七%減と、一六万月ぶりのマイナス。品種別では、銅条二万一、六〇〇tで〇・九%増と、一三万月連続のプラス。黄銅棒一萬六、〇九一tで〇・三%増と、一三万月連続のプラス。

鋼電線出荷量は、前年比三・一%増の六万三、六〇〇t。うち国内一・五%増、輸出が七〇・五%増。部門別では、通信一・六四%減、電力九・三%増、電気機械〇・一%減、自動車四・四%減、建設電版三・一%増、その他内需一・〇%増。

鋼の輸出に関しては、電気鋼輸出が前年比三・六%減の三万八、二六八t、銅スクラップは二九・三%増の三万九、二二二t。足元の生産は好調であるが、九月以降の先行き不透明感から国内需要家が原料手当てを調整したためスクラップ輸出が増加したとの見解。

輸入は電気銅が八八・七%増の九、九七四t、スクラップは六八・一%増の九、六七九t。電気銅は先行き不透明感があるが、製造業が比較的好調なため増加、スクラップは先月まで好調なことからその頃の契約が入荷したため増加したとの見解。

【銅電線に關して】

住宅関連は新設住宅着工数が前年比一四・一%減、持家二五・三%減、貸家七・七%減、分譲住宅七・七%減、分譲マンション二・七%減と大幅減少。消費税引上げの駆け込み需要も終了し、五カ月連続減少。消費税特需も終了し、当面は見込みが薄い。

自動車は生産が一カ月ぶりのマイナスの一・七%減。また八月の国内販売台数も前年比五・九%減と再び悪化。販売に減少の兆しが見受けられ、メーカーもそれに伴い生産を調整したため来月以降に注意。

消費税引上げの駆け込み需要の反動から二本柱の住宅が減少傾向に、先行きについては水準を落着くか注視したい。スクラップ需給に関しては、為替が前月から一円以上安い一〇二・一〇四円(TTM) 近辺でいい水準ではあるが、アベノミクス特需も七月以降降りが見られ、またメーカーも生産調整していることや、九月は中間決算の時期にあたることからメーカーの買気は弱く需給も緩むのでは。

【銅価格に關して】

今月はECBの金融政策、及びロシア・ウクライナ情勢に左右される。

ECBのドラギ総裁は、追加的金融緩和に關して積極的なコメントはしており、タイミングを計っているものと思われる。今月中に行われる可能性はフルムーン・リーグ・ニースのETF・ネット調査によると、ECBが今月四日の政策委員会政策金利を過去最低水準に据え置くこと予想したのは五五人中五〇人と可能性は低い。

ロシア・ウクライナ情勢に關しては米欧が対ロシア制裁を強めているものの、中国が対口政策を難色示しており早期解決は今月中はない。

それらを踏まえた九月の銅価格は、ECBが量的緩和を行わず、ロシア・ウクライナ情勢が少なくとも現状から悪化の無い場合、八月高値の七、一〇〇ドルを予測。いずれの場合も七、〇〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合も二段階安値の六、八〇〇ドル。

為替は注目のジャクソンホールでのイエレン発言が特に材料視されなかつたものの、金融緩和の終了ペースは鈍らないと観測され、ECBも量的緩和を早期に行つてはならないとの観測判断にある対円・ユーロのドル高から上値は七月高値の一〇二円台。下値は変化なければ、一〇四円まで円安進むとの予測(TTM)。

銅建値に關しては七四〇〜七九〇円程度と予測している。